



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	中学校音楽科第1学年における「続く感じ」「終わる感じ」の理解とその指導(fulltext)
Author(s)	石川,裕司; 宮崎,裕子
Citation	東京学芸大学紀要. 芸術・スポーツ科学系, 70: 1-12
Issue Date	2018-10-31
URL	http://hdl.handle.net/2309/150188
Publisher	東京学芸大学学術情報委員会
Rights	

中学校音楽科第1学年における「続く感じ」「終わる感じ」の理解とその指導

石川 裕 司*¹・宮崎 裕 子*²

音楽科教育学分野

(2018年6月29日受理)

ISHIKAWA, Y. and MIYAZAKI, Y.: Lessons aiming Junior High school music class 1st grade students understand the feeling of whether the music is “going to continue” or “going towards ending”. Bull. Tokyo Gakugei Univ. Division of Arts and Sports Sciences., 70: 1-12. (2018) ISSN 1880-4349

Abstract

In this research, we examined students' understanding of music by three processes, i.e., listening, singing, and score understanding. We chose music “Massa's in De Cold Ground” that is a learning material of the first grade junior high school students. We particularly used the last four phrases of the music and asked the students their understanding of whether the music feels like continue or discontinue after the phrase. The percentage of students who answered all correct was listening 60.3%, singing 54.3%, and score understanding 84.8%. There was no significant difference in existence or non-existence of music experience and gender difference. As for typical music curriculum, learning understanding gap tends to widen due to music experience and gender difference. Because we cannot see such difference in our examination, we consider the subject of the research favourable. Although the score understanding scored the highest, we still regard listening and singing are also deemed to be beneficial subject to increase the understanding of the music.

Keywords: Massa's in De Cold Ground, going to continue, going towards ending

Department of Music Educaion, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

要旨: 本研究は中学校音楽科第1学年の教材「主人は冷たい土の中に」で学ぶ音楽的概念「続く感じ」「終わる感じ」について、聴取、歌唱、ハ長調の学習という過程で生徒がどのように捉えたのかを検討したものである。4つのフレーズのすべてに正答した生徒の割合は、教科書及び指導書で指示しているハ長調の学習で最も高くなった。

本研究で行った音楽的概念「続く感じ」「終わる感じ」の設問では、学校外の音楽経験の有無や性差による有意差はみられなかった。音楽経験の有無による差がみられない課題であることは、中学校第1学年のはじめに学ぶ内容として価値のある課題といえる。しかしながら、読譜を主としたハ長調の学習のみ、あるいは階名唱で「続く感じ」「終わる感じ」を理解したと考えることについては議論の余地が残されよう。聴取による理解、あるいは歌詞を伴う歌唱などの表現による理解を促すことは音楽科として有益なことと考える。

*1 東京学芸大学 音楽・演劇講座 音楽科教育学分野 (184-8501 小金井市貫井北町 4-1-1)

*2 練馬区立中村中学校 (176-0025 東京都練馬区中村南 1-32-21)

1. はじめに

中学校第1学年1学期に学ぶ内容は、中学校3年間の体系的な学びや生涯学習の基盤となる教育を構成するうえで大切なものとなる。それは音楽科においても同様であり、中学校音楽科教員はそれぞれに工夫しているところでもあろう。例えば、「中1ギャップ」とよばれる教育問題では、友人・先輩(後輩)・教師といった他者との関係性構築という要因とあわせて、学習内容への適応がその一要因としてあげられるが、学習に対するつまづきをできるだけ回避し、学びを継続してゆけるようにすることは音楽科においても当然考慮されるべきことである。

音楽科における学習内容への適応やつまづきの問題を考えてみると、表現(あるいは自己表現)をすることに対する心理的抑制という問題とともに、音楽知識あるいは音楽的概念の理解といった知的側面での適応もあげられよう。

教育芸術社が発行する「中学生の音楽1」の音楽指導書を参照してみると、計画案として掲載されているA案には、第1学年の初めに学習する内容として「新しい仲間とともに、明るい歌声を響かせよう」や「曲の構成を感じ取って、表現を工夫しよう」が掲載されている¹⁾。「新しい仲間とともに、明るい歌声を響かせよう」では、「拍の流れにのって、明るい声で歌おう(教材:「We'll Find The Way ~はるかな道へ)」や、「自分がもっている歌声を見つけよう!(教材:「My Voice!」)」が学習目標となっている。教材性をみてみると「We'll Find The Way ~はるかな道へ)」では「わかりやすいテクスチュア」や、「ハ長調の音階と平易なフレーズ」(下線は筆者)とされる²⁾。音楽科では、校歌の歌唱を入学後の授業に位置づけて行われることも多いが、「中学生の音楽1」に準じるならば、「My Voice!」も含め、冒頭に述べた学習内容への適応の問題では、表現をすることに対する心理的抑制という問題にかかわるといえる。

それでは、音楽知識あるいは音楽的概念の理解といった知的側面での適応の問題がはじめに生起する可能性があるのはどこであろうか。それは、続く題材「曲の構成を感じ取って、表現を工夫しよう」の教材「主人は冷たい土の中に」であると考えられる。なぜなら、教材性の項の記述には、「A (aa') B (ba')」の二部形式のまとまりを旋律、リズム、強弱、伴奏などから理解し、その特徴を感じ取って、曲にふさわしい表現を工夫することができる。」とあり、二部形式という音楽的概念の理解が目指されることに加えて、「ハ

長調の音階と階名及び終止感の理解」があげられているからである³⁾。(下線は筆者)「ハ長調の音階と階名及び終止感の理解」の欄には、「ハ長調の音階を確認して階名唱することにより、各段の終わりが「続く感じ」と「終わる感じ」のどちらなのかを理解することができる」とされ、この曲を選択する妥当性が記されている⁴⁾。ここで考えなければならないのが、終止感を理解するための方法である。「続く感じ」と「終わる感じ」には終止(形)という音楽的概念がかかわるが、これは「楽曲の段落または終止にあたる部分で、文章における句読点の効果をあげる和声構造」とされる⁵⁾。

指導書に従うならば、「続く感じ」「終わる感じ」の理解を「階名唱」によって行うわけだが、果たして「階名唱」という学習で理解することは妥当なのだろうか。あるいは、別な音楽的行為もその理解に役立てられるものがあるのだろうか。

本研究はこうした問いから、「主人は冷たい土の中に」における「続く感じ」「終わる感じ」の理解について、聴取活動、歌唱活動、ハ長調の楽譜理解という3つの過程において、どの程度理解ができるのかについて調査を行うこととした。

2. 音楽が「続く感じ」「終わる感じ」に着目させる音楽科教材

本研究では、中学校第1学年の「主人は冷たい土の中に」の音楽が「続く感じ」か「終わる感じ」かに着目しているが、音楽が「続く感じ」や「終わる感じ」に着目する学習内容は、小学校でも複数設定されている。

教育芸術社の「小学生の音楽」指導書の実践編をみると、「続く感じ」「終わる感じ」の記述がされている楽曲の例には次のようなものがある⁶⁾。

①「続く感じ」「終わる感じ」が各1回記載されている楽曲

- ・第4学年「陽気な船長」器楽・リコーダー
- ・第5学年「小さな約束」器楽・リコーダー 2重奏
- ・第5学年「いつでもあの海は」歌唱・2部合唱

上記楽曲は、4小節目「続く感じ」と8小節目「終わる感じ」に記述があり、12小節目と16小節目には記述がみられない。

- ・第6学年「ラバースコンチェルト」器楽・合奏

上記は8小節目「続く感じ」と16小節目「終わる感じ」に記述があり、4小節目と12小節目に記述がみられない。

②「続く感じ」「終わる感じ」がそれぞれ2回記載さ

れている楽曲

- ・第4学年「茶色の小びん」器楽・合奏
- ・第6学年「星の世界」歌唱・3部合唱

上記楽曲は4小節目「続く感じ」8小節目「終わる感じ」12小節目「続く感じ」16小節目「終わる感じ」に記載があった。

また、第6学年「星の世界」には、8小節目で音楽が「終わる感じ」になる理由として「次に変化するため」との記述がみられた⁷⁾。

こうして見てゆくと、「続く感じ」「終わる感じ」は歌唱と器楽にまたがって重視すべき内容とみなせよう。

教育出版社の「音楽のおくりもの」では「続く感じ」「終わる感じ」は「続く感じ」「落ち着く感じ（下線は筆者）」として記載されている。第5学年「冬げしき」と第6学年「おぼろ月夜」は共に歌唱共通教材であるが、音楽教科書を見てみると、「冬げしき」には「各だんの終わり方が、続く感じか落ち着く感じかを感じ取って歌おう。（原文ママ）」という学習事項がある⁸⁾。「おぼろ月夜」にも「(㊦㊩㊵の) せん律の終わりが、それぞれに続く感じか落ち着く感じかを感じ取って歌おう」とあり⁹⁾、目立った旋律の反復はないが、「続く感じ」と「落ち着く感じ」がはっきりしているとしてその教材性が述べられている¹⁰⁾。また、「学習の流れ2」とされる活動内容は「旋律のもつリズムや旋律の終わり方について友達と意見交換し、理解する。」となっている。（下線は筆者）そしてこのことを表現の工夫につなげることが「おさえどころ」の一つとされている¹¹⁾。

「おぼろ月夜」の「続く感じ」は正格終止ではあるが、不完全終止であることから、「終わる感じ」を完全終止、「続く感じ」はそれ以外の終止として扱っている。

3. 「主人は冷たい土の中に」の学習の位置づけ

次に、研究対象校における中学校音楽科第1学年の学習と「主人は冷たい土の中に」の学習の位置づけについて概要を述べる。

3. 1 中学校音楽科における第1学年の学習

東京都公立A中学校音楽科における「表現」の授業では、学習指導要領で示された「共通事項」を支えに生徒が感じ取ったことを土台として、音楽の表現を創意工夫し、必要な技能を身に付け、思いや意図をもって歌唱、器楽、創作で表すことができるようにすることを目標にしている。

第1学年では、これから様々な楽曲の音楽表現に取

り組んでいけるよう、音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）と、それらの働きをあらわす用語や記号などについて、平易な音楽活動を通して実感を伴って理解できることを意図して、指導計画を組み立てている。

音楽を形づくっている要素やそれらの働きを表す用語や記号などについて理解し、それを言葉として使えることは、自分の音楽表現の意図や工夫点を自覚し、深めることにつながる。また、他者と表現の工夫について話し合うことも可能となり、仲間とともに創意工夫して音楽表現する喜びを味わえたり、自分の気づかなかった楽曲の魅力や表現の工夫を聞き、表現の幅が広がったりすることもある。そして、音楽的な事象を言葉で言えるということは、同じような音楽的な事象が出てくる他の楽曲に応用できる力にもなる。音楽の授業をしていて、生徒たちが主体的に「こんなふうに歌いたい」「こんな音楽を作り上げたい」と意志をもって作り上げる音楽に勝る音楽表現はないと実感しているが、そのような思いを生徒がもつためには、ある程度音楽を形づくっている要素やそれらの働きを表す用語や記号などについて理解し、それを言葉として使えることや、音楽的な事象を言葉で言えることは非常に重要であり、それは第1学年からしっかり身に付けてほしいことの1つとして、常に念頭に置きながら授業にあたっている。その積み重ねが、2学年、3学年と音楽表現が深まっていき、音楽活動の喜びや感動につながっていくと考えている。

3. 2 「主人は冷たい土の中に」での学習内容と教材的価値

歌唱教材「主人は冷たい土の中に」は、共通事項で言うところのリズム、旋律、形式、構成などを理解して表現できることを目標に、中学校入学後、5月頃に扱っている楽曲である。A (aa') B (ba') の二部形式のまとまりを、旋律、リズム、強弱、伴奏などから理解し、その特徴を感じ取って、曲にふさわしい表現を工夫して歌えることが目標である。また、合わせてハ長調の音階を確認して階名唱したり、フレーズという言葉を実感させ、フレーズの終わりが「続く感じ」か、「終わる感じ」かを感じ取らせて表現に生かしたり、といった授業を展開している。

この教材で「続く感じ」「終わる感じ」という言葉を教えること、音楽の終止感という音楽的な事象を言葉で表すことで、それ以降の他の楽曲の歌唱表現でも、「このフレーズの最後は続く感じがするから、ぶつりと切れる感じではなく、次のフレーズにつなげるよう

に歌おう」といった指導や話し合いが可能になる。このことから歌唱教材「主人は冷たい土の中に」は、「音楽的な歌唱表現へつながる大事な音楽的事象を教えることができる貴重な教材である」と考える。

しかしながら、生徒はフレーズの終わりに休符など空白があれば「終わる感じ」で歌ってしまいがちで、音楽の流れが感じられない歌唱になってしまいやすい。本教材で学んだことを生かしていけば、フレーズのつながりや音楽の流れが感じられるような、音楽的な歌唱表現が可能となろう。よい音楽表現ができたという実感は、音楽活動の喜びや感動につながっていくはずである。実際に「続く感じ」を生かした音楽表現は流れが感じられて素晴らしくなり、2学年、3学年とよりよい音楽表現をしていくのに役立っている。

4. 研究概要

4. 1 研究対象とするフレーズ部と研究の方法

「主人は冷たい土の中に」(武井君子日本語詞/S. C.フォスター作曲/浦田健次郎編曲)のフレーズの終わりや曲の終わりの4か所

- A. 4小節目(しろいくも)
- B. 8小節目(むかしをかたる)
- C. 12小節目(あのえがお)
- D. 16小節目(しずかにねむれ)

上記A～Dのそれぞれについて、次の1)2)3)の記述をもとに各学習活動が「続く感じ」「終わる感じ」の理解にどのようにつながるのかを検討する。

- 1) 「主人は冷たい土の中に」を鑑賞後に、「続く感じ」がするか「終わる感じ」がするかを選択し、その理由を記述(以下、「鑑賞後」及び表では【1 聴いて】とする)
- 2) 「主人は冷たい土の中に」を歌唱した後に、「続く感じ」がするか「終わる感じ」がするかを選択し、変更した場合のみその理由を記述(以下、「歌唱後」及び表では【2 歌って】とする)
- 3) ハ長調と終止音の関係について学習した後に、「続く感じ」がするか「終わる感じ」がするかを選択し、変更した場合のみ、その理由を記述(以下、「ハ長調学習後」及び(表では【3 学習後】とする)

1) 2) 3)の実施については、本論最後に掲載した学習指導案の【調査1】、【調査2】、【調査3】を参照されたい。

4. 2 対象者と調査日

研究対象は東京都公立A中学校第1学年142名(男子76名 女子66名)である。

調査は2018年5月7日～5月17日に行った。

4. 3 学校外での音楽学習経験

学校以外における音楽学習経験の有無については表1のとおりである。およそ3人に1人が学校外での音楽学習経験を有している。

表1 学校外での音楽学習経験

学校外の音楽経験	n	全体%	除無%
ある	48	33.8	34.5
ない	91	64.1	65.5
無回答	3	2.1	
全体	142	100.0	n=139

4. 4 楽曲の既習経験

「主人は冷たい土の中に」は「しずかにねむれ」のタイトルで教育芸術社「小学校の音楽5」に掲載されているが、この曲を聴いたり、歌ったりしたことがある経験者の割合は表2の通り、3.5%であった。(無回答を含めた全体の%)

対象生徒が通っていた小学校音楽科ではあまり扱われなかった教材であるといえる。本研究では、経験者がいつ、どういった場面でこの楽曲に触れたのかについての問いは設定しなかった。また、既習曲という意味ではなく、聴いたことがある(既知曲)という意味で経験ありと回答した可能性も否定できない。

表2 楽曲の既習経験

既習経験	n	全体%	除無%
ある	5	3.5	3.6
ない	135	95.1	96.4
無回答	2	1.4	
全体	142	100.0	n=140

5. 結果

本研究における「続く感じ」「終わる感じ」の正答は、

- A. 続く感じ
- B. 終わる感じ
- C. 続く感じ
- D. 終わる感じ

であり、表の網掛け部分が正答にあたる(表3～5)。

5. 1 「続く感じ」「終わる感じ」の選択と割合

1) 鑑賞後の回答は表3の通りであった。

…上部は人数

…下部はその割合（割合は無回答を除いている）

表3 鑑賞後の回答

	全体	続く感じ	終わる感じ	無回答
【1 聴いて】	141	127	14	1
A しろいくも	100.0	90.1	9.9	
【1 聴いて】	141	30	111	1
B むかしをかたる	100.0	21.3	78.7	
【1 聴いて】	141	113	28	1
C あのえがお	100.0	80.1	19.9	
【1 聴いて】	141	7	134	1
D しずかにねむれ	100.0	5.0	95.0	

2) 歌唱後の回答は表4の通りである。

表4 歌唱後の回答

	全体	続く感じ	終わる感じ	無回答
【2 歌って】	136	120	16	6
A しろいくも	100.0	88.2	11.8	
【2 歌って】	135	32	103	7
B むかしをかたる	100.0	23.7	76.3	
【2 歌って】	135	108	27	7
C あのえがお	100.0	80.0	20.0	
【2 歌って】	137	12	125	5
D しずかにねむれ	100.0	8.8	91.2	

3) ハ長調学習後の回答は表5のとおりである。

表5 ハ長調学習後の回答

	全体	続く感じ	終わる感じ	無回答
【3 学習後】	138	131	7	4
A しろいくも	100.0	94.9	5.1	
【3 学習後】	138	12	126	4
B むかしをかたる	100.0	8.7	91.3	
【3 学習後】	138	129	9	4
C あのえがお	100.0	93.5	6.5	
【3 学習後】	138	3	135	4
D しずかにねむれ	100.0	2.2	97.8	

5. 2 活動間での正答者数の変化

鑑賞後、歌唱後、ハ長調学習後の正答者数の変化について、マクネマー検定を行った。

A しろいくも

・鑑賞後から歌唱後の正答者数の変化

P値0.6831

・鑑賞後からハ長調学習後の正答者数の変化

P値0.1814

・歌唱後からハ長調学習後の正答者数の変化

P値0.0801

P値>0.05となり、有意差は見られなかった。

B むかしをかたる

・鑑賞後から歌唱後の正答者数の変化

P値0.0704

・鑑賞後からハ長調学習後の正答者数の変化

P値0.0030

・歌唱後からハ長調学習後の正答者数の変化

P値0.0002

この結果、鑑賞後⇒ハ長調学習後、歌唱後⇒ハ長調学習後において、有意差が見られた。

C あのえがお

・鑑賞後から歌唱後の正答者数の変化

P値1.0000

・鑑賞後からハ長調学習後の正答者数の変化

P値0.0005

・歌唱後からハ長調学習後の正答者数の変化

P値0.0008

この結果、Bと同様、鑑賞後⇒ハ長調、歌唱後⇒ハ長調において、有意差が見られた。

D しずかにねむれ

・鑑賞後から歌唱後の正答者数の変化

P値0.1138

・鑑賞後からハ長調学習後の正答者数の変化

P値0.2888

・歌唱後からハ長調学習後の正答者数の変化

P値0.0159

この結果、歌唱後⇒ハ長調において、有意差がみられた。

5. 3 属性別検定

次に、学校外の音楽学習経験の有無と、曲を聴いたり歌ったりした経験の有無、性別という属性別に違いがあるか、Fisherの正確検定を行ったところ、A,B,C,Dすべてにおいて有意差は見られなかった。（表6）

ABCDで「続く感じ」「終わる感じ」を問うことは、音楽経験、既習経験、性別などに左右されない設問とみなせる。

5. 4 全4問正答した生徒数

ここでは、1) 2) 3) 別に、ABCDすべてを正答した生徒数とそれ以外の生徒数について調べた。

表6

項目名	両側		
	p値	判定	n
学校以外で音楽を習った経験 【1聴いて】A しろいくも	1.000	[]	139
学校以外で音楽を習った経験 【1聴いて】B むかしをかたる	0.830	[]	139
学校以外で音楽を習った経験 【1聴いて】C あのえがお	1.000	[]	139
学校以外で音楽を習った経験 【1聴いて】D しずかにねむれ	0.693	[]	139
学校以外で音楽を習った経験 【2歌って】A しろいくも	0.387	[]	134
学校以外で音楽を習った経験 【2歌って】B むかしをかたる	0.831	[]	133
学校以外で音楽を習った経験 【2歌って】C あのえがお	0.820	[]	133
学校以外で音楽を習った経験 【2歌って】D しずかにねむれ	0.751	[]	135
学校以外で音楽を習った経験 【3学習後】A しろいくも	0.694	[]	135
学校以外で音楽を習った経験 【3学習後】B むかしをかたる	1.000	[]	135
学校以外で音楽を習った経験 【3学習後】C あのえがお	0.713	[]	135
学校以外で音楽を習った経験 【3学習後】D しずかにねむれ	0.551	[]	135
曲を聴いたり、歌ったりした経験 【1聴いて】A しろいくも	1.000	[]	140
曲を聴いたり、歌ったりした経験 【1聴いて】B むかしをかたる	0.585	[]	140
曲を聴いたり、歌ったりした経験 【1聴いて】C あのえがお	0.583	[]	140
曲を聴いたり、歌ったりした経験 【1聴いて】D しずかにねむれ	1.000	[]	140
曲を聴いたり、歌ったりした経験 【2歌って】A しろいくも	1.000	[]	135
曲を聴いたり、歌ったりした経験 【2歌って】B むかしをかたる	0.338	[]	134
曲を聴いたり、歌ったりした経験 【2歌って】C あのえがお	0.583	[]	134
曲を聴いたり、歌ったりした経験 【2歌って】D しずかにねむれ	1.000	[]	136
曲を聴いたり、歌ったりした経験 【3学習後】A しろいくも	1.000	[]	136
曲を聴いたり、歌ったりした経験 【3学習後】B むかしをかたる	1.000	[]	136
曲を聴いたり、歌ったりした経験 【3学習後】C あのえがお	1.000	[]	136
曲を聴いたり、歌ったりした経験 【3学習後】D しずかにねむれ	1.000	[]	136
性別 【1聴いて】A しろいくも	0.574	[]	141
性別 【1聴いて】B むかしをかたる	0.219	[]	141
性別 【1聴いて】C あのえがお	0.210	[]	141
性別 【1聴いて】D しずかにねむれ	0.452	[]	141
性別 【2歌って】A しろいくも	0.112	[]	136
性別 【2歌って】B むかしをかたる	0.839	[]	135
性別 【2歌って】C あのえがお	0.672	[]	135
性別 【2歌って】D しずかにねむれ	0.546	[]	137
性別 【3学習後】A しろいくも	0.447	[]	138
性別 【3学習後】B むかしをかたる	0.137	[]	138
性別 【3学習後】C あのえがお	0.500	[]	138
性別 【3学習後】D しずかにねむれ	0.247	[]	138

その結果,

・鑑賞後の全問正答者85人, それ以外56人

P値0.0145

・歌唱後の全問正答者が75人, それ以外63人

P値0.3070

・ハ長調学習後の全問正答者が117人, それ以外21人

P値0.0000

となり, 鑑賞後とハ長調学習後において有意差がみられた。

6. 考察

6. 1 中学校入学後すぐに学ぶ音楽的概念としての妥当性

本研究の結果では, ハ長調学習後の正答率は, 4つのフレーズそれぞれにおいて90%を超えていた。

(表5)

また, 調査3においてABCDすべてで正答した生徒は84.8%であった。指導書に記述があったように, ハ長調を学習するということと関わらせて学ばせることで正答率が高まること示された。

もちろん, 正答できなかった生徒もいることから, すべての生徒を正答に導くための手立てを考えてゆく必要があるものの, 中学校入学後すぐに学ぶ音楽的概念という意味においては適当な内容であるとみなせよう。

何より, 音楽経験等の属性に左右されない課題であることは評価されるべきものである。なぜなら音楽科の活動は, 学校外の音楽経験の有無であったり, 性差により(例えば混声合唱に関わる学習内容: 実践を通じたパートの役割理解など)学習理解の差が生まれやすい内容も含まれているからである。

6. 2 正答しなかった理由—コメントの記述から

鑑賞により正答が導けた生徒は, 旋律の動き(音高)と主音の関係に着目し, その動きをおよそ理解できていた。

例をあげると, 【A しろいくも】での次のような記述である。

・最後の2つの音が階段のように1つの音だけあがっているから。・「も」の音があがっていたから。
・「レ」の音は何か続く感じだから。・一度低くなり高くなっていた。・音が落ちない。(原文ママ)・音を延ばし, その延ばす音が若干高いから・ちょっと高めで終わったから

上記以外では、正答は出せているが、「・やさしく終わっているから (=続く感じ 筆者補足)」「・のぼしているから」「・しろいくものさきがありそう」「・クレッシェンドになっている」「・一定の強弱で進んでいるから」など、「続く感じ」の理由としては明確でないものも見られた。BCDでも、音高の理由を記述し、その内容が適切である場合に正答へとつながっていた。

次に、正答に導けなかった生徒が記述した理由について検討してみたい。音高に着目した回答をした生徒も多くいた。

【A しろいくも】 正答に導けなかった生徒の記述

音高認識の間違い

・音がさがってる・「しろいくも」の「も」が下がってるから。(筆者注:「しろいく」まで下行し、「も」で上がる)・音が低いから・最後に音が下がっているから。・フレーズが上がるのではなく、下がっていくから。

強弱

・音がだんだん小さくなっていっているから。・終わってる感じ聞いていく内に音が小さくなっていくから。

・弱くなってる・声が小さくなっていっているから。

歌詞に着目

・場面が変わるようだから・しろいくもは、かわらない。

息(呼吸)

・そよかぜの「そ」で息を吸っていたから。

その他

・次のフレーズにかみあっていないと思ったから。
・なんとなく・かん

【B むかしをかたる】 正答に導けなかった生徒の記述

音高認識の間違い

・音の高さがあまり変わらないから・音ていが下がっているから、次に続くと思う・～がついてる「る」はほかとくらべて下がってないから。・下がったり、上がったりしてなくて、ふつうに「-」こんな感じにのびていく感じだから。

歌詞に着目

・なにかかたるのか?・昔～今思い出したという流れになっていると思った・むかしをかたってから、おもいだすときているから。・歌詞が終わってないから。・むかしの次は未来。・物語でつながっている。・昔を語り頭の中に笑顔がうかぶ。

「かたる」からつづく感じがした。

音の長さ

・少しだけ最後のぼしている。
・るううと聴こえた・最後にのぼしている感じだから。・四分休符との間が空いているから・～の後つながっているかんじがあるから。

曲想

・なつかしそうに歌っているから。
・昔の事をふり返っているように聞こえる。

息(呼吸)

・「かたりますよ。」というはじまり、終わったあとに一呼吸はいるのがきこえる

伴奏

伴奏の音がどんどん高くなっているから。

その他

・直感・続いているから。・何となく

【C あのえがお】 正答に導けなかった生徒の記述

音高認識の間違い

・「お」の音が下がっているから。・「お」が下がるから。⇒この曲の文末だから。・音が低いからおわる音が小さくなるから。・「お」が下がっているから。「お」が低くなっているから。・上に上がりながら終わっているから。・下がっているから・フレーズが上がるのではなく、下がっていくから。

歌詞に着目

・場面が変わるようだから
・昔はもう終って思い出す感じだから。
・終わってる感じ「えがおー」ときてから「ねむれ～」というのには、場面が変わった気がするから。
・「あの」だから、だれかが分かるから
・寝ている顔が見たいという希望の心。・えがおを思い出すみたいだから。・思い出を語っている・物語でつながっている。・昔の話が終わった。・「あの」とついているから過去の感じがした。・「あのえがお」は思い出しているから。

歌い方

・哀しゅうただよわせながら歌っているから。

音の長さや間

・終わってから間があくから・とちゅうでとぎれるようにきこえたから。・のぼしているから

強弱

消えていく感じだったから。

その他

「お～」と「ねむ～か」が違う。・直感

【D しずかにねむれ】正答に導けなかった生徒の記述

強弱

消えていく感じだけど続いている

音高認識の間違い

音の高さがあまり変わらないから

音の長さ

最後に伸ばしている感じだから

続くといっても少しだけ

曲想

「また明日！」みたいな感じがしたから

その他

そうきこえる・なんとなく

【C あのえがお】正答⇒誤答「終わる感じ」

・音が下がっている感じがするから・息を吸って歌っていたから・毎回言葉が続いてないから・なんとなく

【D しずかにねむれ】正答⇒誤答「続く感じ」

・その前の音から続くような感じがしたから・「れ」をのばしたから・聴いたときより「れ」がのびていたから・2番につなげるように聞こえたから・おなじこえをのばしている・のばすから

(下線は筆者)

上記から、「続く感じ」「終わる感じ」については、音高に着目でできてはいるものの、音高の認識を間違えてしまっている生徒が見られた。中でも、上行下行の聴き間違いが見られた。

また、歌詞の内容(意味)として音楽が続いているとみなせる場合、音楽が「終わる感じ」であっても「続く感じ」と認識してしまうこと、強弱によって感覚的に判断してしまうことなどが見られた。プレスの意識、曲想なども、正答には繋げられていなかった。

これらのことから、次の2つのことを順序だてて指導する必要がある。

- i 音の上行下行を正しく聴きとれるようにすること
- ii 歌詞のみ、あるいは強弱のみで判断しないこと

6. 3 正答から誤答へと変更した理由

本研究では、全問正答者数が鑑賞後よりも歌唱後に低くなった。このことは、「続く感じ」「終わる感じ」の理解においては、歌唱活動があまり活かされなかったことを示している。

ここで、正答を誤答へと変えてしまった理由について、生徒の記述から考えてみたい。

【A しろいくも】正答⇒誤答「終わる感じ」

・すげーゆっくり・毎回言葉が続いてないから
・なんとなく

【B むかしをかたる】正答⇒誤答「続く感じ」

・聴いているときは終わるように聞こえたが、歌っていると全部響いているように聞こえる
・音が下がっていても歌詞が次に続いていた気がしたから・「る」で次に向かっていく感じがしたから
・歌ってみると「る」が長くなる気がするから
・やさしくのびてるかんじ・声を伸ばすから

正答から誤答にしてしまった理由として着目したいことはBDで音を伸ばすところに着目した点であろう。その他の理由は、個別的なものであった。よって、音の長さが「続く感じ」「終わる感じ」に直接関与していないことも伝える必要があるだろう。もちろん、そのことが重要となる楽曲あるいはフレーズについて否定するものではない。

7. おわりに

本研究では、教科書及び指導書にあるように、ハ長調の学習をすることが「続く感じ」「終わる感じ」の正答につながっていたことが確認できたが、本来的には、音楽を聴いたり、歌ったことで「続く感じ」がわかる、あるいは「終わる感じ」がわかるといったところとつなげられなければならない。鑑賞や表現活動の直接的経験により音楽的概念を理解することと、楽譜を見て理解するということには質的差異がある。また、なにより、生徒(とりわけ学校外の音楽学習経験のない生徒)が日常的に楽しんでいる音楽聴取では、楽譜を用いない場合が通常である。J-POPなどでも、さび前の「続く感じ」で急激に盛り上がりとする曲も人気がある。「続く感じ」のところで、音楽がどのようにになっているのか、「終わる感じ」でのアーティストの表現はどのようなものであるかなど、日常的な音楽を楽しむことにも学びを広げてゆきたい。

中学校音楽科の授業が日常の音楽を楽しむためにも有益であると生徒が感じられるように授業内容を構成することは、音楽を生涯愛好することにつながる。

また、こうした学習内容について小学校音楽科教員がより意識し、学習を積み重ねていくことも期待したい。本研究でも小学校における「続く感じ」「終わる感じ(あるいは「落ち着く感じ」)」の学習に関わる教材についてふれたが、「まきばの朝」の4小節毎のまと

まり部分に付記されている「フレーズの終わりを丁寧に」という指摘や¹²⁾、「歌のにじ」の曲の終結部「ドで終わる」¹³⁾などは、いずれも曲が「続く感じ」、「終わる感じ」へとつながってゆく内容である。

小・中を通して、学びを重ねてゆくことにより、中学校での知的な理解における躓きをなくしてゆくことにつながってゆくことができよう。

引用・参考文献

- 1) 中学生の音楽1指導書 研究編, pp.6-7, 教育芸術社, 2016
- 2) 前掲書1, pp.10-11
- 3) 前掲書1, p.12
- 4) 前掲書1, p.12
- 5) 秋岡陽(海老沢敏他監修):「新編音楽中辞典」, 第12刷, p.300, 音楽之友社, 2015
- 6) 小学生の音楽4指導書実践編, p.26, pp.46-48, 教育芸術社, 2016
小学生の音楽5指導書実践編, p.16, p.18, 教育芸術社, 2016
小学生の音楽6指導書実践編, p.18, pp.26-27, 教育芸術社, 2016
- 7) 小学生の音楽6指導書実践編, p.26, 教育芸術社, 2016
- 8) 小学音楽 音楽のおくりもの5, p.39, 教育出版社, 2016
- 9) 小学音楽 音楽のおくりもの6, p.11, 教育出版社, 2016
- 10) 小学音楽 音楽のおくりもの6 教師用指導書研究編, p.30, 教育出版社, 2016
- 11) 前掲書10, p.31
- 12) 小学生の音楽4指導書実践編, p.22, 教育芸術社, 2016
- 13) 前掲書12, p.16

第1学年音楽科学習指導案

1 題材名 「旋律のまとまりや曲の構成を感じ取って表現しよう」

2 教材名 「主人は冷たい土の中に」 武井君子 日本語訳詩／
S. C. フォスター 作曲／浦田健次郎 編曲

3 題材の目標

旋律のまとまりや曲の構成（2部形式）を、旋律、リズム、強弱、伴奏などから感じ取り、曲にふさわしい表現を工夫してよい発声で歌う。

4 学習指導要領における根拠

内容 A 表現

(1) 歌唱 ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。

[共通事項]

リズム、旋律、形式、構成

5 題材設定の理由と教材観

中学校に入学後、よい発声について学習し、豊かな響きのある声で歌うことを目標に授業を行ってきた。次なる本題材では、よい発声だけでなく、旋律のまとまりや曲の構成を理解し、その特徴を感じ取って曲にふさわしい表現を追求することを目標としたい。

A (aa´) B (ba´) の2部形式のまとまりを、旋律、リズム、強弱、伴奏などから理解し、その特徴を感じ取って、曲にふさわしい表現を工夫して歌えることが目標である。

教材の「主人は冷たい土の中に」は、4フレーズのシンプルな構成の曲である。ハ長調で階名唱することを通して、各フレーズの終わりが「続く感じ」か「終わる感じ」かの理解ができ、強弱やリズム、伴奏の変化も分かりやすく、構成がつかみやすい。また、この曲で「続く感じ」「終わる感じ」を学ぶことで、他の曲でも旋律の受け渡しに注意して、流れのある歌唱表現をすることが可能になる。

シンプルな曲で理解を深め、できた喜びを味わわせながら、音楽性豊かな歌唱表現力を育てていくことを目指し、本題材を設定した。

6 評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
学習活動における具体的な評価規準	「主人は冷たい土の中に」の歌詞の内容や曲想に関心を持ち、音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	①リズムパターンとその反復や変化、フレーズ、終止感、二部形式などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取っている。 ②「主人は冷たい土の中に」の歌詞の内容や曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもって歌っている。	「主人は冷たい土の中に」の歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現をするために必要な発声、言葉の発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌っている。

7 指導と評価の計画 (2時間扱い)

	■ねらい ○学習内容	具体的な評価規準 【評価方法】
第1時	<p>■「主人は冷たい土の中に」の全体像をつかみ、よい発声で歌詞唱する。 ○楽譜を見ながら「主人は冷たい土の中に」を鑑賞し、歌詞の内容や全体像をつかむ。よい発声を意識しながら歌詞で歌う。</p> <p>○ハ長調で階名唱する。 ○教科書p. 11 を用いてハ長調の音階を確認し、「主人は冷たい土の中に」を音高に気を付けながら階名唱する。</p> <p>■曲の構成に気付き、表現を工夫する。 ○教科書の「ここが分かれば Grade up!」を用いて各フレーズの特徴を調べ、曲の構成に気付く。 ○曲の構成に関する気付きを基に、どのように音楽表現を工夫するか、自分の思いをもつ。ワークシートに記入する。</p>	<p>観点ア 【表情観察、演奏観察】</p> <p>観点イ 【ワークシート】</p>
第2時	<p>■曲の構成や表現の工夫について、クラスでの意見交流をすることによって理解や考えを深める。 ○前時のワークシートをもとに曲の構成や表現の工夫について発表し合い、意見を交流する。 ○二部形式や終止感について理解する。 ○音楽表現を工夫するポイントについて発表し合い、話し合う。</p> <p>■話し合ったことを基に、音楽表現を工夫し、よい発声で歌う。 ○歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現となるよう意識し、歌唱する。 ○よい発声、言葉の発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌う。</p>	<p>観点ア 【行動観察】 【ワークシート】</p> <p>観点ウ 【表現観察、演奏観察】</p>

8-1 第1時の指導

(1) 本時のねらい

- ① 「主人は冷たい土の中に」の全体像をつかみ、よい発声で歌詞唱する。
- ② 曲の構成に気付き、表現を工夫する。

(2) 本時の指導の展開

	学習内容	・学習活動 ●予想される生徒の反応	○指導上の留意点	具体的な評価規準 【評価方法】
導入	発声練習	・腹式呼吸、いつもの発声練習を行う。		
展開	「主人は冷たい土の中に」をよい発声で歌詞唱する。	<p>・「主人は冷たい土の中に」の範唱CDを聴き、曲の全体像をつかむ。【調査1】</p> <p>・どんな思いを歌った歌なのか、大まかにつかむ。</p> <p>・1フレーズずつ範唱を聴きながら歌い、通して歌詞唱できるようにする。【調査2】</p>	○リズム、フレーズ終わりの延ばす長さは正確に、強弱、フェルマータなどに留意して歌わせる。	観点ア 【演奏観察】
	ハ長調で階名唱する。	<p>・教科書p. 11 の五線に、ハ長調の音階と階名を記入する。</p> <p>・「主人は冷たい土の中に」を階名唱する。</p> <p>●階名唱ができない。</p>	<p>○階名、主音、音階の確認を行う。</p> <p>○楽譜に一部階名をふらせる。その中で同じフレーズや似たフレーズに気付く生徒が多い。階名をふるることについて</p>	

			は、できる生徒に先生役を頼み、教え合いをする。	
	曲の構成に気付き、表現を工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の「ここが分かればGrade up!」を用いて各フレーズの特徴を記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ●書けない生徒がいる。 ・各フレーズの特徴から曲の構成に気付き、そこからどのように音楽表現を工夫するか、自分の思いをもつ。ワークシートに記入する。 	○巡回指導を行う。	観点イ 【ワークシート】
まとめ	今回の授業内容の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・次回、曲の構成や音楽表現の工夫について意見交流し、実際に歌うことを知る。 	○回次の授業内容を端的に説明する。	

8-2 第2時の指導

(1) 本時のねらい

- ①曲の構成や表現の工夫について、クラスでの意見交流をすることによって理解や考えを深める。
- ②話し合ったことを基に、音楽表現を工夫し、よい発声で歌う。

(2) 本時の指導の展開

	学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動 ●予想される生徒の反応 	○指導上の留意点	具体的な評価規準 【評価方法】
導入	本時の目標の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・本時は曲の構成や曲想を生かした歌唱をしていくことを理解する。 	○本時の活動内容、目標を端的に説明する。	
展開	曲の構成や表現の工夫について、意見交流	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムパターンとその反復や変化、フレーズ、強弱、終止感、二部形式を知覚、理解する。【調査3】 ・音楽表現で工夫したいことを発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ●3フレーズめの強弱の変化をしっかりと出したい。 ●1、3フレーズめの終わりを続く感じで歌いたい、など。 	<ul style="list-style-type: none"> ○終止感については、そのフレーズの終わりの音が主音かそうでないかを理解させ、終止感の感受に役立てさせる。 ○二部形式については、知覚したことのまとめとして伝える。 ○クラスメートの表現の工夫を聞き、自分の表現の幅が広がるようにする。 	観点ア 【行動観察】 観点イ 【ワークシート】
まとめ	話し合ったことを基に、音楽表現を工夫し、よい発声で歌う。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことを生かし、歌詞の内容や曲想を生かした音楽表現となるよう意識し、歌唱する。 ・よい発声、言葉の発音、呼吸法などの技能を身に付けて歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○表現を工夫し、よい発声で音楽性豊かな歌唱になるよう指導する。 ○できたことを認め、達成感をもてるようにする。 	観点ウ 【演奏観察】